



[柴田未来展望]

その流れの先へ

写真・上／空から見た柴田町。白石川が蛇行しながら柴田の町を貫流する
写真・下／春には一目千本桜、船岡城址公園の桜を一望できるさくら歩道橋

この町には、人々の温かな交流と笑顔がある。
世代を越え、脈々と伝え継がれてきたところがある。
それらは、町の伝統や文化を育み、この町を潤してきた。
そしてこれからも、新たな夢を育みつつ、
町と人々を潤しながら、未来へと繋いでいくのだ。



「北船岡河川敷公園の景観を良くする会」は、心と体の健康のもと。ぜひ、次世代へと繋げたい活動。

その流れの先に
……………①



仙石 博志さん
昭和8年3月6日生まれ。
北船岡在住。
「北船岡河川敷公園の景観を良くする会」会長。

「北」船岡河川敷の景観を良くする会」は、さくら歩道橋が開

通した年の秋、平成十三年十月に設立しました。立派な歩道橋が完成したのだから、周りの景色を楽しみながら歩けるよう、もっと周辺の景観を良くしよう、もっと周辺の景観を良くしよう、もっとと「花いっぱい運動」をしていた「花いっぱい運動」を始めていた「花いっぱい運動」を始めていた「花いっぱい運動」を始めていた。会員は、現在四〇人前後。活動は、白石川堤防や河川敷公園の草刈り作業と歩道橋周辺の花の選定から植付けとその手入れや管理まで、また周辺のゴミ拾いも、会員が自主的にを行っています。これらが行っている活動は、「みやぎスマイルリバープログラム」でのスマイルサポーターとして認定さ

れています。一番苦労するのは、やはり堤防や河川敷の草刈り作業。

高齢者には重労働で大変ですが、きれいななった所に、小さいお子さん連れのご家族が遊びに来て喜んでもらえると、何よりも嬉しいですね。それにこの活動を通じて、自身の体と心と、さらに頭の健康に大変良いようです。会員との親睦が深められるのも、楽しみのひとつですね。この活動は、ぜひ次世代へと繋げていきたいものです。



河川敷に花を植える会員の皆さん

地域の伝統食や食文化を子どもたちに伝え、見直していく。柴田町の食育に取り組んでいます。

その流れの先に
……………②



水原 和子さん
昭和22年7月22日生まれ。
入間田字古内在住。
柴田町食生活改善推進員連絡協議会会長。

「食」

生活改善推進員連絡協議会は昭和二十八年に発足し、当初は栄養改善の指導で、地域住民の健康増進を図るのが目的でした。現在は食生活が豊かになったため、逆に栄養の偏りを無くすよう、バランスのとれた食生活の指導・広報をすることが主な活動です。発足以来、五十余年活動しています。

特に平成十六年度からは、「みやぎ食育の里づくり」モデル事業に取り組んで、柴田町に伝わる伝統行事の食事や地元産の食材を使った郷土料理などを見直し、子どもたちに伝えていく食育の活動を、育成会や婦人会、生産者団体など地域の方々の協力をいた

だいて取り組んでいます。食生活の簡略化が憂慮される今日、活動のひとつの「親子料理教室」では、子どもと一緒に、昔ながらの手づくりの料理に、予想以上の反響がありました。また「しばた食の祭典」でわが家の自慢料理を募集したところ、平成十六年度には三五〇点、十七年度には二五〇点も集まり、どれも工夫されたものばかりで素晴らしいと思いましたね。この食育は、柴田町の食文化や伝統文化を伝える役割もあるので、今後も続けたい活動です。



平成16年に開催された第1回「しばた食の祭典」

これまで植えた一四〇〇本の桜が
毎年、満開の時に最も美しく咲くよう
子々孫々まで守り伝えたい。

その流れ
の先に
.....③



桜場 政行さん
昭和35年7月8日生まれ。
船岡中央3丁目在住。
「柴田町さくら会」会長。

昭

和五十三年に発足した「柴田町さくらの会」は、先人が植えた桜を愛でるだけでなく、育成管理していくと始まった会。柴田町を全国に冠たる桜の名所にしていくと、発足以来、毎年五〇本の植樹をしてきました。二十年かけて桜二〇〇〇本の植樹を目指し、平成十三年にすでに二〇〇〇本を達成しましたが、今なお植樹を続けて、現在は一三九五本になりました。最近植える場所がなかなかない状態で、ここ数年は植樹した桜の管理と大木になったソメイヨシノのテングス病駆除や保全が中心となっています。先人の功績もあり、おかげ様で柴田の桜は、これだけ沢山の桜がある割に、テング

ス病も少なく見事に満開に咲くと多くの人から褒めていただいています。

私は、昭和五十五年からこの会に入会して活動に参加しています。それまでは春になればあたり前に咲くと思っていた桜ですが、今では、多くの人たち



太陽の村でテングス病の駆除を行う会員の皆さん

町の活性化のため積極的に活動。
女性部ならではの企画で
柴田町の良さを全国にPRしたい。

その流れ
の先に
.....⑤



船山 良子さん
昭和18年7月3日生。
槻木上町在住。
柴田町商工会女性部部长。

田町商工会女性部(旧婦人部)が発足したのは、昭和四十三年八月一日、部員数二十五人のスタートでした。以来、各種講習会や研修会をはじめ、施設慰問などのボランティア活動、町のイベントなどにも積極的に参加して、町の活性化のため、女性部の特性を生かした事業活動を展開しています。

現在の部員数は一〇六人。部員のほとんどが女性経営者で、自分の考えやノウハウを持つているので、何かをやると決まると、どんどん意見を出し合い、団結と行動が早いですね。「花いっぱい運動」を最初に始めたのも女性部ですし、駅前の方も女性部の活動です。柴田町の良さは、まず立地



船岡駅に花を植栽する会員の皆さん

兼業農家が多くを占める柴田町。
柔軟にバリエーションを広げる
これからの農業に期待。

その流れ
の先に
.....④



加納 厚志さん
昭和22年3月4日生まれ。
槻木字館前在住。
農業。
認定農業者連絡協議会会長。

柴

田町の認定農業者連絡協議会は、意欲あるプロの農業経営者を育成・確保していくと、効率的で安定した農業経営を目指す農業者が農業経営改善計画を作成し、町から認定された三六人によって、平成十四年十月に設立されました。現在の会員数は四一人で、私を含め農協の青年部や4日クラブを経て入会した人が多くです。おもな活動は、しばたコメ祭り、農業経営セミナー、仙南地域認定農業者ネットワークなどへの参加です。

切り替えましたが、現在は再びハウスでの鉢花栽培をしています。柴田町は、私のような水稲をベースに花き栽培や畜産をしている複合農家が多く、また時代の波で、ほとんどが兼業農家です。最近では町の宅地化が進み、農地が減ってきているのを淋しく感じます。農業は地域の環境保全に役立つと思うんです。また最近では、農業のバリエーションも多様化してきて、次世代の農業に期待したいですね。



コメ祭りで地元食材を使った料理を提供

目で見てわかる福祉を合い言葉に
福祉劇団「鶴亀」を結成。
柴田町を発信地に活動を続ける。

その流れ
の先に
.....⑥



加茂 紀代子さん
昭和13年6月22日生まれ。
船岡在住。
柴田町議会議員。
福祉劇団「鶴亀」制作・監督。

社劇団「鶴亀」が結成されたのは平成三年のこと。柴田町が高齢社会に向け「ねたきりゼロ作戦」として「高齢者サービスタウン」をつくり積極的に推進しようとした際、さまざまな福祉サービスマスターに知ってもらうため、お年寄りでもすぐ目で見えてわかる福祉をと、「福祉劇公演」を考案しました。当時、日赤の「寝たきりの殿様」という絵本があり、その作者に許可をいただいて脚本を作り、柴田町ボランティア友の会と民生委員やホームヘルパーさんから有志参加を募って、平成三年三月二十七日に行われた「高齢者サービスタウン推進大会」で、「寝たきりになったお殿様」を

上演。決定からわずか二週間という、実に短期間での作業でした。当初は一回きりの予定でしたが、同年度の「仙南ブロックボランティア活動交流研修会」での再演を希望され、その後も町内に限らず近隣市町村、県外と各方面から依頼されて上演してきました。いまや介護や障害者福祉は、人ごとではなく、将来誰にでも起こりうることで、より多くの人への啓蒙活動のために、要望がある限り、福祉劇団の活動を続けていきたいと思っています。



福祉劇団の活動は、平成14年度地域づくり団体総務大臣表彰ほか多数受賞。

【町章】昭和36年12月20日制定

町章は柴田の2字を図案化したもので、柴田町の興隆を象徴しています。この町章は昭和36年12月20日、町民から募集した作品をもとに制定しました。力強く飛翔する柴田町をデザインしたものです。



【町の花●さくら】

春になると船岡城址公園や白石川堤に淡紅色の可憐な花を咲かせる「さくら」。町もさくらのように、末代まで親しみ愛されるようにと制定されました。



【町の木●もみの木】

大河ドラマ「縦ノ木は残った」の放映で町民にとってもなじみのある「もみの木」。町ももみの木のように、大空に向かって一直線に伸びるようにと制定されました。



【町の鳥●きじ】

母性愛が強く、美しい姿が柴田町を象徴しているような「きじ」。町もきじのように、いつまでも美しく慈しまれるようにと制定されました。



【町民憲章】昭和51年1月1日制定

わたくしたちは、霊峰蔵王のきよらかな姿を朝な夕な仰ぎ、心豊かに育ち、恵まれた自然と誇りある歴史と伝統のうえに、お互いの心と心のふれあう、活力に満ちた緑の住みよい、ふるさとをつくる道しるべとして、ここにこの憲章を定めます。

- わたくしたちは、心を見がきからだをきたえます。
- わたくしたちは、明るく楽しい家庭をつくります。
- わたくしたちは、おたがいに立場を重んじます。
- わたくしたちは、元気で働くことをまこります。
- わたくしたちは、自然を愛し高い文化をそだてます。

【町の概要】

昭和31年、船岡町と槻木町が合併して誕生した柴田町。人口は39,000人を超える、県内有数規模の町である。東北唯一の政令指定都市である仙台から南へ約30キロメートル、北西部は高さ200メートル前後の山々に囲まれ、町中央部を白石川が貫流し、町東部で阿武隈川と合流している。

町の幹線道は中央を走る国道4号と国道349号、JR東北本線、阿武隈急行線。さらに西部の山沿いには東北新幹線が伸び、仙台空港、東北自動車道村田インターチェンジへのアクセスも整備され、今や仙台経済圏への玄関口へと生まれ変わっている。

気候も温暖で冬期でも積雪は少なく、夏もしのぎやすいことから、稲作をはじめ花や果樹などの栽培も盛んで、町の特産品として県内外へと出荷されている。また、産業構造の変化の中で、幹線交通網の整備に合わせてように食品関連や精密機器関連などの大手企業が町に進出し、現在では東北の町村中で第5位の製造品出荷額を誇る“工業のまち”でもある。

一方、古い歴史と伝統につちかわれた柴田町は観光資源も豊富で春の桜まつりや秋の菊の祭典には毎年多くの観光客が訪れる。“花と緑の郷”柴田町は、豊かな自然に生まれ、四季折々に鮮やかな時を刻みながら、新たな時代を一步一步、前進し続けている。



柴田オールブランド

柴田のものづくりの信条は、一つひとつの工程にまごころを込めること。大地の恵みと人々のまごころが生む、ふるさとの優しさがたくさん詰まった選りすぐりの品々です。



柴田の菊

All Brand
of
Shibata
柴田町特産品



菓子パン



銘菓桜ふぶき



ゆず酒



桜こまち



銘菓桜乃香・四保月



くるみ庵・館の月



味噌



シクラメン



リンゴ



手打ちそば



長なす漬け・長茄子漬



雨乞のユズ